

インフルエンザワクチンの説明書 〈先にお読み頂き、 予診票をご記入下さい〉

【ワクチンの効果と副反応】

- ・ インフルエンザワクチンの接種を行うことで、インフルエンザによる重篤な合併症や死亡を予防し、健康被害を最小限にとどめることが期待されています。
- ・ ワクチンの効果は、接種を受けられる方の年齢やインフルエンザの経験および体調によって異なり、また、そのシーズンの流行株とワクチン株の抗原一致状況によっても変わります。
- ・ 日本の調査では、65歳以上の健常高齢者の場合、約50～70%の発病を阻止し、約80%の死亡を阻止する効果があると言われる一方、インフルエンザの経験が少ない1歳以上6才未満の幼児の場合は、発病を阻止する効果は20～30%との効果がでています。しかし、インフルエンザの合併症（インフルエンザ脳症や重症肺炎）のリスクを考慮し、接種を受けられることをお勧め致します。
- ・ 副反応の多くは局所反応（発赤、腫脹、疼痛）や全身反応（発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、嘔吐等）で、通常2～3日で消失します。また、極めてまれですが、重い副反応（アナフィラキシー、アナフィラキシーショック、急性散在性脳脊髄炎、ギラン・バレー症候群、けいれん、肝機能障害・黄疸、血小板減少性紫斑病、血小板減少、間質性肺炎など）も起こり得ます。

【インフルエンザワクチン接種の時期と回数について】

- ・ インフルエンザの免疫は接種後2～4週間頃に完成し、3～5ヵ月間程度持続すると言われています。例年のインフルエンザの流行時期を踏まえ、10月下旬～12月上旬の間に接種されることをお勧め致します。
- ・ 厚労省の指針では、13歳未満は2回接種が推奨されていますが、毎年接種を受けてきた9歳以上の方は、1回接種でも2回接種と大差はありません。一方、受験生には2回接種をお勧め致します。

【救済制度】

予防接種の副反応による健康被害が生じた場合には救済制度があります。（接種後の注意書参照）

【予防接種ができない方】

- ① 明らかに熱がある方
- ② 重い病気にかかっている方
- ③ アレルギーで鶏卵を食べられない方
- ④ 過去にインフルエンザワクチン接種を受けてアナフィラキシーショックを起こした方
- ⑤ 予防接種を行うことが不適当な状態であると医師が判断した方

【予防接種を受けるに際して医師と相談が必要な方】

- ① 慢性疾患や持病のある方、また発育障害などのある方
- ② 予防接種後、2日以内に発熱、発疹、蕁麻疹などのアレルギー反応を疑う異常がみられた方
- ③ 鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものにアレルギー反応を起こす恐れのある方